

外国人起業家を含めた エコシステム形成に期待

久しぶりに福岡を訪れ、アジア人を中心に外国人観光客の多さに驚いた。しかし、もっと驚くべきは、福岡市がスタートアップシティとして外国人起業家の誘致にも積極的に取り組んでいるということだ。同市は、2012年に「スタートアップ都市ふくおか宣言」を発表し、2014年には国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」に指定されている。その後、2015年に起業家向けのビザ緩和措置としてスタートアップビザが申請できるようになった。

コンパクトシティと呼ばれる福岡市は、大名・天神などの中心地域に、官民連携のスタートアップ支援施設 Fukuoka Growth Next(FGN)内のスタートアップカフェや外国人の起業相談窓口であるグローバルビジネスサポート(GBS)、様々なコワーキングスペースなどが集積しており、外国人も含めた起業やスタートアップのエコシステムを形成している点の特徴である。実際、筆者もこのエリアを歩いて移動することがあったが、徒歩圏内にこうした施設があるため、何かイベントや商談があってもすぐに参加できる気軽さがあり、関係者が自然と出会って交流しやすいと感じた。今後、起業家やスタートアップ企業の成長を支援するアメリカの施設である「CIC(ケンブリッジ・イノベーション・センター) Fukuoka」も2025年に同エリアに本格的に進出予定であるため、外国人起業家とのより密接な関わりも考えられる。

このようなスタートアップや起業関係者のコミュニティが形成されていることや、福岡市や福岡地域戦略推進協議会(FDC)、ジェトロ福岡などを中心に海外のスタートアップイベントや提携都市向けに積極的なPRを行っていることで、欧米やアジアで福

岡市の認知度が高まっている。結果としてスタートアップビザの申請件数も増加し、2024年10月までの累計で148件と東京都に次ぐ勢いである。



関係者へのヒアリングによると、こうした起業支援以外にも外国人起業家が感じる福岡市の魅力が2点ある。1つは、地理的利便性である。特に韓国、中国など東アジアで既に起業している外国人の場合、福岡を含めていずれにも拠点があるケースが多いため、アジアや空港に近い(博多駅から福岡空港まで地下鉄で5分)福岡市は国外に頻繁に移動する外国人にも非常に便利である。筆者はシンガポールを訪問することもあるが、福岡市は交通アクセスが良く、スタートアップが集積するなどアジアのシンガポールのような印象を受けた。シンガポールでも中心部から空港まではタクシーで20～30分程度かかることを考えると、空港へのアクセスはシンガポール以上の利便性である。

2つ目は、自然が豊かで暮らしやすいという点だ。具体的な理由を様々な関係者に聞いてみると、海と山が近くてしかも都市部にも近い、欧米の人は海が見えるオフィス兼自宅でリモートワークをしたい、など様々な意見が聞こえてきた。糸島も最近外国人に人気とのことである。また、首都圏と比較して物価やオフィス賃料など運営コストが安い点も魅力である。

今後はこうしたスタートアップや外国人起業家がより定着し、福岡がグローバルなスタートアップシティとして一層飛躍することを期待する。

(アジア研究所教授 九門大士)

* 研究所だより*

今回は現在進行中の全6本の研究プロジェクトをご紹介します。(※は今年度終了)

「外国人材の誘致・活躍に向けた取り組み」*

(代表 九門大士)

「中国情勢研究会 ～習近平政権の着地点④～」*

(代表 遊川和郎)

「グローバルサウスとASEAN」

(代表 大泉啓一郎)

「アジアの社会保障の新展開」

(代表 大泉啓一郎)

「2020年代中盤における韓国経済社会の諸問題」

(代表 奥田聡)

「インド太平洋における貿易投資政策と経済安全保障の行方(2)」

(代表 久野新)

今年度終了のプロジェクトは最終成果を「アジア研究シリーズ」として研究所HPにアップいたします(<https://www.asia-u.ac.jp/research/asian-institute/projectreport/>)。どうぞご期待ください。

今後もアジア各国の情勢についての確かつタイムリーな情報提供に努めてまいります。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。

(koza@asia-u.ac.jp)